

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	滋賀県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	守山市立河西小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	3	3	3	3	4	24	33
児童数	123	122	101	107	116	117	12	698	

研究の概要

1. 研究主題

河西学びのプラン「子どもの主体的な学びの姿勢を求めて」 基礎・基本の力をつけるための方途を探る
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年～6年	国語(「聴く・話す・読む・書く」が全ての教科において学ぶ力をつけるために必要な基本的なスキルと考えるため)
1年～6年	算数(子どもの理解度に差が出やすい教科であり、積み上げが必要な内容が多いため)

(2) 年次ごとの計画

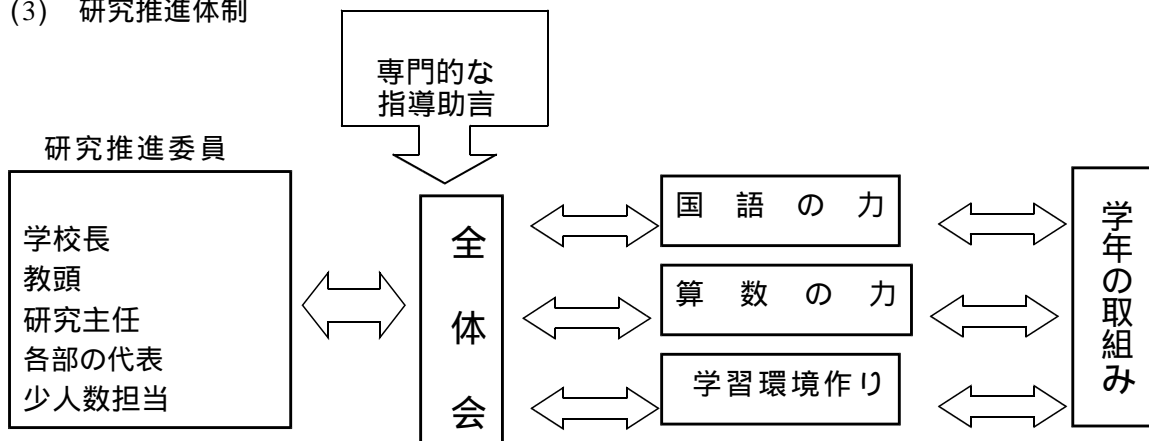
平成14年度	<p>テーマ 河西学びのプラン「子どもの主体的な学びの姿勢を求めて」 『学び』へさそい、支援する学習の工夫をさぐる</p> <p>研究の見通し(仮説) 子どもたちの知的好奇心を呼び起こし、学びの基本を身につける指導方法を工夫すれば、子どもたちは主体的に学習を進め確かな学力が育つであろう。</p> <p>平成14年度 学ぶ意欲を育て学習する集団作りの育成 平成15年度 学びを深めるための基礎・基本のスキルの定着 平成16年度 身につけた基礎・基本の力を教科や総合的な学習の時間で生かし、自ら考え判断できる力をつける</p> <p>研究の内容・方法 基礎・基本の力を明らかにした指導内容の改善 基礎・基本となる力(学力)を明らかにし、その力をつけるためには教科や各領域でどのような力をつける必要があるのか、学習方法や内容を見直し、発達段階にあわせて系統的に指導していく方途を探る。 『わかる』『楽しい』学習の教材・指導方法の開発 人、もの、ことにかかわる力(基本的な学力)を育てるにはやはり主体的な児童の活動が不可欠である。体験を重視したり、児童の目に見える形で成果が表れる学習課題を設定したりして、児童の主体的活動を促す支援の工夫を研究する。 少人数学習を生かした教材開発・指導方法 少人数学習のよさを生かし、一人ひとりが興味をもち、楽しく学習に取り組むことができれば児童の主体的な学びを引き出すことができる。それはまた、基礎的な学力が定着するような学びでなければ価値がない。学習の前と後では児童の変容が見られるような価値ある教材開発に努める。さらに、それが個の実態に合った単元構成になっているか、学び方がわかる学習課題になっているかなどを検証しながらカリキュラムを作成する必要がある。また、課題別、学習方法別など指導方法の改善に努めるとともに、多くの課題から自分にあった学習方法や自分のしたい活動が選択できるように子どもの思考と調和する指導方法を開発する。</p>
--------	--

	<p>学習集団の育成 一人ひとりが学習を楽しみと感じるのは、できなかったことができた時や問題を解決できた時、あるいは学習に仲間とともに取り組めた時である。そんな学習集団を育てることは一人ひとりの学習を支える意味でも重要である。そのために各教科・領域を通して集団のよさを生かした学習を展開し、体験を通じた個を支える集団づくりに取り組む。</p>
--	---

平成15年度	<p>テーマ 河西学びのプラン『子どもの主体的な学びの姿勢を求めて』 基礎・基本の力をつけるための方途を探る</p> <p>研究の見通し 子どもたちの知的好奇心を呼び起こし、学びの基本を身につける指導方法を工夫すれば、子どもたちは主体的に学習を進め確かな学力が育つであろう。</p> <p>研究の内容・方法 『わかる』『楽しい』学習の教材・指導方法の開発 基本的な学力を育てるにはやはり主体的な児童の活動が不可欠である。体験を重視したり、少人数学習のよさを生かしたりできる教材の開発に努めるとともに、ねらいを明確にし、子どもの思考と調和する指導方法を開発する。</p> <p>基礎・基本のスキルの獲得 小学校の6年間でつきたい力を明らかにし授業改善に取り組む。また、そのために必要な『話す』『読む』『書く』『計算する』の力をつけるための具体的な取組みを学年ごとに実践する。</p> <p>基礎学力をつけるための学習習慣の確立 『すべての子どもの学力の向上』のために最も大切にしなければならないものは1時間1時間の授業である。授業は学力向上の原動力であり、集団として豊かな学びを生む場でもある。そこで、学習の構えを作り、仲間とともに伸びていこうとする学習習慣の確立を図る。</p> <p>自分の成長が見える学習 音読や算数の計算の力をつける100ます計算は児童の目にも成長がとらえやすい。それは学習習慣を身につけるためにも必要な要因であることから本年度より自分の伸びがわかる学習を取り入れられるように工夫した。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 河西学びのプラン『子どもの主体的な学びの姿勢を求めて』 自ら考え表現できる子どもの育ちを求めて</p> <p>研究の見通し 子どもたちの知的好奇心を呼び起こし、学びの基本を身につける指導方法を工夫すれば、子どもたちは主体的に学習を進め確かな学力が育つであろう。</p> <p>研究の内容・方法 個にあった指導の充実 少人数学習では、どのように分けても一人ひとりの理解の速さの違いや考え方の違いから個人差が出てくる。そこで、一人ひとりの考え方や理解の状態を把握し、支援の方法を工夫して個にあった指導の充実を図る。</p> <p>評価の工夫 一人ひとりの目標に対して評価規準は適正であるかどうかを再検討し、自分に対する有能感を育てる評価の方法を探る。</p> <p>多様な考えを引き出す工夫 一人ひとりが自分の力を発揮できるようになるには、失敗に対する不安感やとまどいを軽減する必要がある。そのために表現する方法の工夫や学習形態の多様化などに努める。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



教科の特性を生かし、全校で一貫した指導方法を実践する必要性を痛感した。そこで、今年には国語と算数の基礎の学習に力を入れることを確認し、教科別部会を立ち上げた。教科別部会は、重点的に取り上げる具体的な学習方法や教科の特性を生かした学習展開について話し合う場とした。また、児童の意識の実態をさぐり指導に反映させるために、学習環境部会を設けた。この部会で得た情報は児童実態の参考になるところが大きいと考える。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

『学び』が成立するために、落ち着いた学習態度が必要不可欠である。また、そうでないと基礎・基本のスキルを身につけることはできない。そこで、昨年より朝の15分を<火曜日>ステップタイム(算数既習学習の復習)、<木曜日>お話タイム(絵本の読み聞かせ)、<金曜日>視写タイムを取り入れ基礎・基本のスキルアップの時間に活用していた。2年間継続してきた結果、朝から静かに席に着き、学習する姿勢が身についてきた。そして、1時間目の学習が落ち着いた雰囲気の中で始められるようになった。

児童のアンケート結果から

視写タイム

・高学年になるにつれて、「字がきれいに書ける」から「作文を書く力がつく」「漢字が覚えられる」と答える児童が増えてきている。

お話タイム

・低学年ほど楽しみにしている児童は多く(1年生は95%)話を集中して聞けるようになってきている。

・高学年では楽しみにしている児童が約60%だったので、校長、教頭、他学級の担任がお気に入りの1冊の読み聞かせをしたところ、児童の興味、関心が高くなってきた。

また、『自分は聴く力もついてきている』と答える児童も多い。

ステップタイム

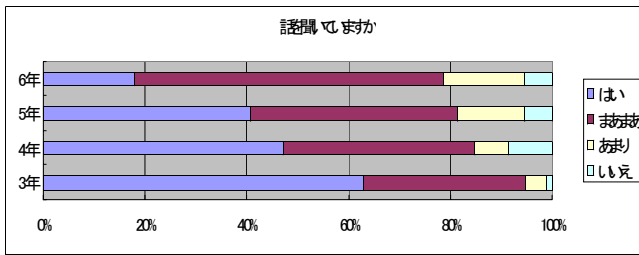
・復習を中心に学習を進めているが、基本的な内容の設問だけなので、理解ができているかどうかを担任が把握しやすく、また、評価もその時間内にできるので60%以上の児童が「好き」と答えるようになってきている。

・高学年の児童は「めんどろ」と答える児童が多かったので、詳しい聞き取りを実施したところ、「むつかしくてできない」ということがわかった。今はTTで実施している。

3年生以上の算数の授業で少人数学習を取り入れている。1学級の人数が多いので全学級を2つに分けて少人数による学習を実施している。少人数担当による教材研究や教具の作成により、児童が意欲的に取り組めるような学習の展開を工夫することができた。特に今年には算数的体験を多く積めるような学習の展開が工夫されていた。また、評価については昨年の反省を生かし、少人数にしたことで、一人ひとりのつまづきを把握することができ、基礎的なスキルを身につけることができた。

少人数の学習の場では自分の考えを話せる児童が増え、集団としての話し合いが活発になった。このことは一人ひとりの主体的な学習の場を作り出すきっかけとなり、算数の基礎力の定着が図れた。とともに算数が好きな児童が増えた。

学びの場での集団のあり方は一人ひとりの児童の学力を伸ばす上でもそのもつ意味は大きい。学期に1度「話し上手・聞き上手」の指導をし、子ども達に言葉のもつ意味や場に応じた言葉遣いの大切さ、相手に与える言葉の力を考える学習を積み重ねた。



その結果、「自分は話を聞いている」と自覚する子が増えた。また、自分の言語生活を客観的に見直すきっかけとなり、言葉遣いはていねいであるべきだという姿勢が出てきており、また日常生活においても人間関係が影響されるということ意識し、あいさつができる児童が増えてきた。学習の効果が目に見えることは大切なことである。昨年に続き「音読」

に力を入れ、場の設定も工夫した。題材も詩や早口言葉など学級で工夫して練習に取り組んでいる。児童の主体的な姿も多く見られ、内容の理解にもつながった。

学習環境部会を設け、児童の実態に目を向けたさまざまなアンケートを実施することができた。このアンケート結果から私たちの取組みを振り返りかえることができた。

2. 今後の課題

算数における少人数の集団を、単元によりあるいは学習の展開によって等質にしたり課題別にしたりあるいは習熟度別にしたりしているが、どの単元で、どのような集団にするか学習効果があるのか、単元構成とともに今後も研究を重ねる必要がある。

朝の時間の視写タイムは「漢字の力をつけるために活用できないか」などまだまだ工夫の余地がある。児童の興味を大切にしたい内容を検討していきたい。

4・5年生で実施した週1時間の国語の作文の指導の時間は、書くことを好きにする児童を育てることにつながった。短作文などでつけた力を今後はどう生かすかが課題である。

評価についてはまだまだ課題が多い。評価規準を作成したが、個人の目標に対してどうだったかという視点が弱い。一人ひとりに合った学習の支援が十分とはいえなかった。

学習形態の工夫が足りなかった。一人ひとりを力をつけるためにも学習効果が期待できるグループ学習を、どう取り入れて単元を構築するのかを工夫していきたい。

学力等把握のための学校としての取組

計算力実態調査

・目的

計算力の実態を知ることにより、児童の計算力の課題を把握し今後の指導に生かす。

・実施方法

(実施学年) 2～6年

(内容) 前学年までの既習の計算問題

2年 たし算・ひき算

3年 たし算(2位数+2位数)・ひき算(3位数-2位数)の筆算、九九

4年 たし算ひき算(3位数同士)の筆算、かけ算(2,3位数×1位数)

わり算(あまりあり、なし)

5年 かけ算(3位数×2位数)わり算の筆算、小数のたし算、ひき算

6年 小数のかけ算、わり算 分数のたし算、ひき算(同分母)

・実施時期 1月下旬～2月上旬 (平成16年度は4月と2月の予定)

学習意欲・関心のアンケート

・目的

アンケートに答えることによって自分の学習態度を振り返る。

児童の意識をさぐり、学習活動に生かす。

・実施方法

(実施学年) 3年生以上

(内容) 学習に対する興味関心や朝の時間に対する自分の取組み

・実施時期

毎年7月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・授業研究会

11月21日

本校で同ブロックおよび近隣の小中学校の教員対象に本校の取組みを紹介した。(約60人の参観者)

なお、算数の授業で使用した教具が好評で、他校の参考になった。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】

15年度からの新規校

14年度からの継続校

【学校規模】

6学級以下

7～12学級

13～18学級

19～24学級

25学級以上

【指導体制】

少人数指導

TTによる指導

一部教科担任制

その他

【研究教科】

国語

社会

算数

理科

生活

音楽

図画工作

家庭

体育

その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】

有

無